

令和 3 年 度 自 己 評 価 表

鳥 取 県 立 米 子 白 鳳 高 等 学 校

中長期目標 (学校ビジョン)		多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝」の心を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と自立のための能力・態度を育む。			今年度の 重点目標	1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 「ふるさと」とつながる心の育成 4 社会的な自立に向けた支援	
年 度 当 初					評 価 結 果 (3) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○授業を大切にしている態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○全ての教員によるユニバーサルデザイン・合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開の標準化 ○生徒情報の共有による授業への還元 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を転入職員に行った。 ○特別支援教育支援員を配置し、個別指導を充実させている。 ○1～3年の後期の授業出席率は76％であり、前期より減少したものの引き続き高い傾向が続いている。	B	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけを継続し、授業への動機付けを行う。
	○ICT活用教育の推進	○ICT化の進展と感染予防対策の点で、情報活用能力の育成が必要である。	○ICTの活用ができる。	○ICT活用のための教員研修と環境整備 ○各教科でのICT活用の推進 ○NHK高校講座でのICT活用 ○生徒個人端末の積極的な活用	○タブレットは昨年に引き続き多くの先生が授業等で利用されている。 ○授業アンケートをGoogle Classroomで行うなど、授業での活用を促進している。 ○全職員対象にオンライン授業の研修会を行った。	B	○タブレット端末を含めICT機器の活用を引き続き推進し、ICT機器のスキルアップを図る。 ○Google Classroomのさらなる活用を図る。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・特別支援教育支援員・自鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業(学校内託児)の推進	○中学校からの引継や関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUの研修を実施し生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有や左記の職員とのこまめな情報共有を行った。 ○通信制就学支援事業(学校内託児)は、今年度は14回実施し、託児児童は延べ28人で生徒の評価も良好であった。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継や関係機関との情報共有、「合理的配慮」申請による支援会議やHyper-QUを活用し、個別支援をさらに充実させる。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康管理指導の推進	○遅刻・欠席指導については担任が中心に生徒へ声かけ、家庭連絡を行い丁寧な指導を行っている。 ○自動車・バイク通学生は交通ルールを守り、事故等はなかった。自転車通学生については自動車との接触事故などが起こり、並進、スマホ運転に対して交通安全指導を行った。 ○生徒のマスク着用が定着し、毎朝の検温・健康観察を行い、感染症対応に努めている。	B	○生徒の情報共有を徹底し、個々の実情に合った指導を継続する。 ○令和5年度自転車通学生ヘルメット着用について周知徹底を図る。 ○感染症予防を徹底する。
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互い尊重し合っ てクラスが居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウンターの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実	○計画どおり教員研修を実施し、教員の生徒理解、生徒の自己理解が深まった。 ○定時制ではエンカウンターを実施し、居心地のよいクラス環境作り、人間関係作りを行った。 ○計画どおり性に関する指導や人権教育指導の事業を実施した。	B	○生徒間の人間関係力を引き続き育成する。 ○定時制では今後もエンカウンターを実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。
	○通級による指導	○人との関わり方やコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○対象となる生徒が自分自身を認めながら自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができるようになる。	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進	○「通級による指導」に定時制7人通信制1人が受講し、生徒の満足度も高かった。	B	○「通級による指導」に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。
3 「ふるさと」とつながる心の育成	○体験活動とおとした社会性の育成と自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)の検証と発展 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進	○新型コロナウイルス感染症の影響で一部が実施できなかったが、コロナ対策を講じた上で実施できたものは、体験的活動を通して、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活が送ることができるようになってきている。 ○多くの生徒がアルバイトを経験し、ボランティア活動にも参加している。学年ごとに地域美化活動を実施している。	B	○今後も引き続き体験活動をおとして、生徒自ら進んで行動できるよう、事業を実施する。
	○地域との交流と協働	○地域との交流をおとし、地域社会や周りの環境に対する関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心をもち、異世代とのコミュニケーションができる。	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールを活用した地域理解の深化 ○淀江地区との交流と地区活性化への貢献(銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんご保存会)	○計画を縮小したりした事業もあるが、コロナ対策を講じた上で実施できたものは、地域の人々や文化に触れることで他者との関わりや地域つながりを学ぶことができている。 ○学校運営協議会は、6月は荒天候のため中止し、10月と2月(書面審議)の2回実施した。	B	○今後も地域との交流活動や貢献活動など、引き続き計画した事業を実施する。 ○学校運営協議会との連携を高め、具体的方策に繋げていく。
4 社会的な自立に向けた支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる。	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導 ○インターンシップの推奨	○進路LHR、担任個別指導を多く実施し進路実現を達成することができた。 ○卒業予定生の大幅増加にも対応することができた。	B	○就職支援相談員との連携を深める。 ○進路意識の向上を図るための情報提供を積極的に行う。
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○自立に向けた活動を計画どおり実施し、プレゼンテーションなど自己表現能力が徐々に身につけてきている。また、卒業後の進路目標など明確になってきた。	B	○今後も自立に向けた活動を系統的に企画・実施をする。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携	○コロナ禍のため事業所見学はできなかったが上級学校見学は実施した。 ○ハローワークとは講演会実施の他、連携を密にして進路指導にあたっている。	B	○今後も個々の進路希望に応じて外部との連携を密にしていく。
5 学校業務改善 に向けての取組	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月45時間、年360時間を超える時間外業務がない。	○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月45時間超勤務者は2月末で延べ7名(実質該当者1名)で、100時間を超える月が2月あった。 ○超勤者への声かけを随時行っている。 ○定時退勤日・定時退勤週は大体実施できている。	C	○引き続き声かけをししていく。 ○来年度も定時退勤日・定期退勤週を設定する。
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要などところもある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理 ○職場環境での感染予防対策の徹底	○2回安全点検を実施し、危険箇所等の確認をした。 ○職員室は比較的整頓されている。 ○共有フォルダの整理はまだ中途である。 ○日常的にマスク着用や校内消毒・換気を行っている。	B	○安全点検において破損等確認すれば今後とも迅速に対応する。 ○共有フォルダの整理を推進していく。 ○引き続き感染予防に努める。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

【100%】

【80%程度】

【60%程度】

【40%程度】

【30%以下】